

かな教材の改訂に向けて

小林幸江 善如寺俊幸

【キーワード】 ひらがな、カタカナ、初めてかな文字を学ぶ留学生、改訂版、
針金体

1. 改定の経緯

留学生日本語教育センター（以下、センター）の国費学部留学生に対する予備教育プログラム（以下、1年コース）^(注1)では、来日直後にひらがなの未習者に対し「ひらがな教室」を開催している。授業開始前にそこでひらがなの清音を学ぶ。授業開始後、2週間ほどかけて、その他のひらがなとカタカナを学ぶ。かな文字指導の教材として、センター開発の『はじめてのひらがな』『はじめてのカタカナ』が使用されている。これらの教材は、酒井順子が1年コースのために作成したプリント教材を工藤嘉名子、菅長理恵が字形を修正したりイラストを加えたりして大幅な見直しを行い、2007年に冊子の形にしたものである。

現在、両教材とも在庫が底をつきつつあり、増刷の時期が迫っている。これらは、使い慣れた教材ではあるが、改めて全体を通して見てみると、「2. 改訂に向けて」に示すように検討が必要な箇所が見られる。そこで、2010年度の1年コースの文字語彙カリキュラム^(注2)はこれを機に、より効率的、効果的な文字指導をめざし、留学生に対する日本語教育の観点から文字指導のあり方を再検討し、新たな提案を盛り込み改定版を出すこととした。

2. 改訂に向けて

日本人の子どもの場合、小学校入学後、かな文字を学び始める。小学校では教科書体が読み書きの際の標準字体となっている^(注3)子ども達は、国語教育の中で、単に知識獲得の手段としてかな文字を学ぶだけでなく、書道や硬筆による書写を通して伝統としての文字を学んでいく。かな文字をはじめ、文字学習は国民を作る教育の一環とも言える。これに対し、成人である留学生は既に異なる母語、文字を持っている。その上で、日本語習得のためにまずかな文字を学ぶ。日本人の子どもの場合とはニーズ、目的、方法が異なる。

改定にあたり、1年コース文字語彙カリキュラムは、留学生に対する文字指導とどうあるべきかの原点に立ちかえて考え、そのためにかな教材はどうあるべきかを検討した。

2-1 留学生に対する文字指導のあり方

(1) 留学生のための文字指導の目的

留学生にとって、大学の勉学での日本語による知識の獲得は留学の大きな目的となる。そのために、かなや漢字等の文字は重要な手段となる。センターでは、ひらがな、カタカナ、漢字の順で導入される。かな文字の習得は漢字学習につながる第一歩となる。それゆえ、限られた時間で効率的に指導することが求められる。

(2) 留学生の文字背景

センターは今年度創立40周年を迎える。センターで学ぶ留学生は、創立当初はASEANの一部の国と地域の華僑の子弟が中心だったが、時を経て留学生の出身国は広がりを見せ、最近では、1年コースの留学生のうち9割近くが非漢字圏の出身者で占められるという状況となっている。また、現在、センターでは、1年コースの他にもさまざまなカテゴリーの留学生を受け入れているが、そこでも、非漢字圏の留学生が中心となっている。

留学生の書く文字を野本(1967)は「ひよろひよろ文字」と形容している。これは文字を習いたての日本の子どもの書く文字と似ており、メリハリのない文字という意味で用いられているが、野本はその主な原因として「毛筆の伝統を引いていない」ためとしている。非漢字圏の留学生の中にも初めてかな文字を学ぶとは思えないほど線のしっかりした文字を書く人もいるが、数は少ない。日本人の子どもの場合、毛筆や硬筆を用いた書写^(注4)により練習を積み文字のメリハリを獲得していく。しかし、留学生にとって日本語学習のための時間は限られている。また、教室での留学生の筆記具は、シャープペンシル、ボールペンがほとんどであることから、日本人の書写で鍛えられたメリハリある字形を期待することは難しい^(注5)。

以上の観点から、現教材の見直しを行った結果、以下の点を検討することとした。

2-2 現教材の検討すべき点

(1) 日本語の文字を初めて学ぶ留学生に配慮した教材となっているか。

現教材は、本文は教科書体、文字導入の部分は書道家による手書きとなっており、両者の字形が一致しない^(注6)。留学生にとって字形が捉えにくく、書き表すと他の

字形と紛らわしくなるかなには、「そ」「ふ」「や」、「シ」「ツ」「ン」「ソ」などがある。非漢字圏出身の留学生には、最初のかな導入に際してはわかりやすく、まちがえにくい文字で導入することが必要ではなからうか。

(2) 学習者の視点は十分か。

現教材はコンパクトにまとめられているが、教室で教師が指導することを前提に作成されているため日本の文字やかな文字に関する説明が少なく、また、英文の翻訳も不十分である。使用する留学生のカテゴリーが広がり、使用する形態も変化している状況を踏まえ、自学自習用にも使えるよう、学習者の視点を取り入れるべきではなからうか。

(3) 構成が統一されているか。

センターでは、かな文字はひらがな、カタカナの順で導入されていく。現教材では、それぞれ「導入」「書き」「読み」の三つの構成よりなっているが、個々のページを見ると統一を欠いている。使いやすさは、構成の統一からくるのではないか。

(4) 1年コース以外の留学生にも使いやすいか。

現教材は、『初級日本語』に準拠したものとして作成されているが、日本語教科書改訂^(注7)に伴い、単語の移動等があり整合性がずれてきていること、また、他のカテゴリーの留学生も使用しているということを考えると、センター内での汎用性を目指すことも必要となってくる。

3. 改訂のポイント

以上述べた現教材の抱える課題を踏まえ改定を行った。改定のポイントは以下の2点となる。

ポイント1:「針金体」の採用

改訂版は、初めてかなを読み書く留学生のための教材であることを考え、留学生が効率的にかな文字を学べるよう書体について大幅に見直した。

改訂版では、留学生がふだんボールペンやシャープペンシル等で書くという実情を念頭に、細い線で初めてかな文字を書く時に、書きやすく、読みやすく、間違いにくい書体を採用している。これは、本教材のために新しく開発したもので、「針金体」と名づけることにする。(針金体の50音図は資料1参照)

(1) 針金体の特徴

針金体は、文字の美しさという点では不満の声のあることは予想できるが、これ

は、留学生のかなの字形の問題（「(2) 針金体で学ぶ効果」）を改善するため、かつ、効率的に学ぶことに主眼をおいて開発されたものである。針金体の特徴として以下の点があげられる。

- ・ 毛筆の装飾的特徴を一切省いて、できるだけ字線をシンプルに等幅にした。
- ・ 縦横の画もできる限り垂直と水平にした。
- ・ 曲線の画はできるだけ円形にしている。
- ・ ひらがなはできるだけ角をなくし円みを持たせて柔らかい字線にした。それに対して、カタカナは直線と角を多く用い、角張った印象になるようにした。
- ・ 一つの型を学習すれば、それを応用して種類の字が書けるように工夫した。

(2) 針金体で学ぶ効果

針金体で学ぶ効果として、ひらがな、カタカナとも資料2「字形類型表」にあるように字形が類型化されるため、字形を把握しやすく、従って書きやすい。針金体での指導により、従来留学生の文字学習で見られた以下の問題について改善が期待できる。（ここでは該当するひらがなを従来どおり教科書体で示している。）

〈ひらがな〉

- ・ 「そ」の一筆書きの字形は書写の困難な留学生が極めて多かった。針金体では書きやすい字形に改めた。
- ・ 「ち」「ら」「ろ」「る」はそのバランスに苦しむ学習者が多いため、それぞれ下半分に「つ」を書けば自動的に字が成り立つように工夫されている。
- ・ 「ふ」は初めてかな文字を学ぶ留学生が最も苦勞する字の一つである。これについては数字の「3」を応用して大胆な簡略化を試みた。
- ・ 「や」は「か」に似た字を書く留学生が多いので、違いが認識できる字形に改めた。

〈カタカナ〉

- ・ 「シ」「ツ」「ン」「ソ」の書き分けが難しい留学生が多い。針金体ではそれぞれの書き始めが分かるように工夫されている。

ポイント2: 使いやすい教材作成のための工夫

使いやすい教材作成のため、改定版では以下の工夫をしている。

- ・ 従来の『はじめてのひらがな』『はじめてのカタカナ』を合冊版とし、さらに見やすく、使いやすくなるよう各ページのレイアウトを工夫した。
- ・ 学習者のために、かな文字に関する情報等、学習者に役立つ情報を載せ英訳を添えている。（例：ウォーミングアップとして、かなの成り立ち、かなの練習

の内容を充実させた)

- ・用語をわかりやすいものに変えた。(例：現教材にある「促音」「拗音」の代わりに「小さい“っ”」「小さい“ゃ”」等)
- ・全体は18課よりなる。各課の構成を、①「よみましょう」、②「かきましょう」、③「れんしゅうしましょう」から成るように統一した。しかし、カタカナは語が限られているため、清音、濁音までは①、②のみの構成となっている。③は最後にまとめて示している。
- ・ひらがな、カタカナのそれぞれの終わりに、まとめとして、「まちがしやすいひらがな」「まちがしやすいカタカナ」を加えた。
- ・センターのどのカテゴリーの留学生でも使えるように内容を整理した。特にカタカナの練習の部分は大幅改定を行った。
- ・その他、誤植、イラストの不鮮明さ等は以前から指摘を受けているところであり、今回修正を行った。

4. 今後の活用

改定版『ひらがな・カタカナ』は2011年度からの使用を目指している。改訂版では、新しいかな文字のための書体「針金体」を開発した。留学生に対する文字指導のあり方を敷衍すれば、漢字についても書体を検討することが必要となる。しかし、漢字については議論が分かれるところもあり、なお時間をかけ検討していきたい。今回は文字学習の入り口に焦点を絞り、「書きやすい、読みやすい、覚えやすい、そして、まちがえにくい書体」を提示した。これにより、幅広い留学生を対象としたかな教材として利用されること、留学生の文字学習が効率的に進むことを期待するものである。

さらに、今後は本教材をオンライン教材化し、日本語未習者に対する来日前のかな指導に結びつけることも考えられる。今後の活用を図っていきたい。

資料 1

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつてと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ
はひふへほ	ハヒフヘホ
まみむめも	マミムメモ
やゆよ	ヤユヨ
らりるれろ	ラリルレロ
わをん	ワヲン

資料2 「字形類型表」

	平仮名の字形類型		カタカナの類型	
1	「こ」型	「に・た」	1	「フ」型 「ア・マ・セ・ヤ」
2	「さ」型	「き」	2	「フ」型 「ス・ヌ・ラ」「ワ・ウ」
3	「し」型	「も」	3	「ゝ」型 「キ・ヤ」
4	「す」型	「む」	4	「コ」型 「ヨ・ロ」
5	「た」型	「な」	5	「ノ」型 「ソ・ツ・ハ・メ・ヲ」 「ク・タ・イ・オ」
6	「つ」型	「ち・ら」「ろ・る」		
7	「ろ」型	「る」	6	「ニ」型 「エ・ユ」
8	「て」型	「そ」	7	「シ」型 「ヒ・モ・セ」
9	「と」型	「を」	8	「リ」型 「リ・ア・カ・ケ・サ・チ・テ・ナ・ル」
10	「の」型	「め・ぬ・あ」		
11	「よ」型	「な・ま」「は・ほ」	9	「レ」型 「ル」
12	「は」型	「ほ」	10	「ン」型 「シ」
13	「ぬ」型	「ね」		
14	「り」型	「け」		
15	「わ」型	「ね・れ」		

(注)

- 注1：国費学部留学生の大学進学前の1年の予備教育を指す。
- 注2：1年コースでは、「文字語彙」「文法」「読解」「聴解」「文章表現」「口頭表現」について、教材作成、試験作成等をそれぞれのカリキュラムが担当することとしている。
- 注3：「学習指導要領」の小学校の「国語科」では「漢字の指導においては学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とする。」と明記されている。
- 注4：硬筆による書写では、毛筆の特徴が出しやすいようにB系の芯のやわらかい鉛筆が用いられている。
- 注5：小林(1998)は、標準の字体と現代人の筆記具について、「シャープペンシル、ボールペン等の筆記具は一定の細さの文字であり続けるため、終筆の止め、跳ね、払いなどのニュアンスある表現は表れにくい。」と言及している。
- 注6：2007年度改訂版でも、手書きの部分について筆溜まりを修正液で消す等の工夫をしている。
- 注7：従来の『初級日本語』は、2010年4月から『初級日本語 上』『初級日本語 下』2分冊となり、三省堂より新装改訂版が発売されている。

参考資料・文献

- 酒井順子制作・菅長理恵・工藤嘉名子編(2007)『はじめてのひらがな』『はじめてのカタカナ』東京外国語大学留学生日本語教育センター
- 文部科学省 「小学校指導要領」(「国語科」)(平成10年12月告示)
- 小林一仁(1998)『バツをつけない漢字指導』大修館書店